



15
1928
7



南世海の川ニて

秋結る仙



四海平めく歡笑おさく人々
辭少りて。紫胡の命よ病人を
性自修此理。大乃廢れくや何かに
義も。其千ランカがむ川のーさんま
廢れ。後世の變化。されむむつ
さ千ランカンとて。かぬよわげ。遠くが

南世海

ちねきぬ禱のがかりあり日法を持
愛の心無性法送りむいひ。やすき油の
着るりのよ。三代 経のゆきぬカビタニ法を
法華とらるる。短叙の悪輪は焼く下の札
とぬらつけ。教誨の抽抄ありて極楽
の悪人教。子子ぬれ井の抽抄はど
くら此葉の信り一物すて。門徒家の
佛壇より。性切らぬむかりの大念を普し

乾坤震巽稱名さんまぐく白果くこふ
ハニとがせんの中家々目くよ妻
この後者借く妓もきく世のこ
しごそねも信佛のぬらひかざらば
あつてちねいおるのこんまん。ちね
子う海しち永代おる家。子あま
ちやあね。猫のびの嵐とち煉盤
ずねちやあね。用。吹よせの子孫。信聖徳

その一



源次の内れうそくらこはたの書屋は
あひらと。お合井戸のしまりある。怪し
の彩もとまりし。竹のやれ戸梅若む
すむのり。濃染の暖簾も一布らやと
く。板のち板戸角ち師伝りきるも
いととびし。月をさあまが情のいとまに
糸を揺らう。契は兼。母の生れハ小僧
お里の。こハおれどもあまし。哀の

小をひ状のそ信。み丁あましく其又ハ
何をまうよろ。能お業と。おと待衆
もささるる。折おぬれこのお入を
お入るお入。日は月よ仕おあくとお
所此跡湯も。毎日あましく月お何やの
お定り。あうお千おおやうと川撿も。右
小妻の七あう。年角の併も并れめさ
紙おさやととん。縁の舞はり送り

く。槽なぐろ代しろのぬねら。縁しん頭しん縁しん全ぜんはぬ
きんとめざむさま。背せ中ちゆう流りゅう一いつ合あ少せうて度た
や茶ちや向むか鏡かみの二ふた心こころ。濁みじり一いつあ一いつ解かい
多おほ形かたちも。不ふ短たんのなも。狂きやうひ。濃のうくく度たくく化け
且またすあ一いつく。やここ中ちゆう茶ちや代しろあんあんとと存ぞん
以もつより。喜き柿かき流りゅう此こゝ給たまののとと生せいううよよ志し子こ
帯おび形かたち中ちゆうむすび。志し中ちゆう一いつううとと一いつうう
ある刻とき。和わ結むすと中ちゆうとと佩ひさ。刻とき本もとののけの

抑おさ枝えだをを流りゅうひひく。志し中ちゆう一いつううとと一いつうう
行いひひ一いつううとと一いつううのの腰こしかけかけ一いつうう。みち
むかひのむづ山のやまののどどとと。志し中ちゆう一いつううとと一いつうう
とと一いつううとと一いつうう。摺すり掉たうのの古ふるくく味あじせんせんつつととく
ののとと一いつううかけかけ捨すて。系けい結むすててんんとと也や合あててととく
いといと中ちゆう一いつううとと一いつううとと一いつううとと一いつううとと一いつうう
時ときとと一いつううとと一いつううとと一いつううとと一いつううとと一いつうう
合あぬぬ中ちゆう一いつううとと一いつううとと一いつううとと一いつううとと一いつうう

その一

うーとよみ流れの技すーまんいあ
とーとよみあふあふこの。それよまはらひ
身はすりり。女の名すーあかりのひ
折オリあふれくのりまねひすまねあふ
の長なが那なあふ屋や言ことと。はくもまあり月
かひ。思おもびてくは路ち次じの奥おく。度ひらい生
ーとよみあふ。せまの借か金かねふとあふと
母ははと。んかちあふ。あふもあふらう。

たく初はつの落おちるね。屋やも眠ねうそあふん
うーとよみあふもあふう人のまーあひま
あひまびくね。強つよくあふあふ。たそれ
とーとよみあふ。押おのすうとーと
あふ。あふのあふあふもあふあふ。あふ
とーとよみあふ。あふく。あふ。あふ
あふはあふく。あふあり。あふありとあふの
あふあふあふ。あふあふ人があふくあふ



佐の川二

九

